文化会館整備工事基本・実施設計業務委託

設計与条件

1．設計背景

文化会館が位置する奈良公園周辺地域は、国内外から年間1000万人以上の来訪者が訪れる日本を代表する観光地である。特に文化会館が位置する登大路町周辺は、奈良公園の玄関口として、様々な施設や地域資源が集中しており、非常にポテンシャルの高い一帯となっている。

文化会館は開館から50年以上が経過し、耐震工事の必要性に加え、老朽化も著しいことから、抜本的なリニューアルが必須である。リニューアルに際しては、一帯を新たな「文化ゾーン」として位置づけ、奈良公園の玄関口としての品格を満たすとともに、文化振興・観光振興の拠点として再整備する。

2．業務の目的及び概要

本業務においては、文化会館整備工事にかかる基本・実施設計業務を行うものであり、業務の概要は以下の通り。

・小ホール新築工事（既存躯体の一部（北東部）を撤去し、新築）

・耐震補強工事

・特定天井改修工事（国際ホール、ロビー、エントランスホール）

・国際ホール改修工事（客席、舞台機構、舞台照明、舞台音響等）

・中庭屋内化工事（中庭に屋根を設置し屋内化）

・外部階段除却工事（文化会館東部分）

・エレベーター設置及び改修工事

・レイアウト変更にかかる内部改修工事

・長寿命化のための内外部改修工事

・前庭東部階段の再整備工事

・敷地北東部擁壁改築工事

上記工事（建築、電気、機械、昇降機、音響等）にかかる基本・実施設計業務

3．建物概要

文化会館　RC造一部S造、地上3階地下2階建て、延べ面積約16，500㎡

（新築：約3，300㎡、除却：約3，900㎡、改修：約11，500㎡）

耐震安全性による分類
- 構造体　Ⅱ類
- 非構造部材　B類
- 建築設備　乙類

４．設計与条件

(1)　本整備工事において目指すコンセプトは以下の通りである。

・「賑わい」：音楽小ホール・カフェテリアの新設と、国際ホール・ホワイエ・展示機能・貸会議室などの既存の機能の全面的なリニュールアルによって、文化会館に日常的な賑わいを生み出す。大宮通りの賑わいを文化会館・美術館方面に呼び込み、文化ゾーン全体を活性化させることに寄与する。

・「使いやすさ」：築５０年を経過した文化会館を、全面的なリニューアルによって現代の性能・使い勝手に引き上げる。誰にも分かりやすい動線の軸をつくり、奈良県の音楽・芸術活動の拠点となる文化会館とする。利用者視点・管理者視点の両面から、使いやすく、快適な空間づくりを行う。

・「世界に発信」：文化会館・前庭・美術館が一体となった文化ゾーン全体整備の第一段階として、周辺を含めた価値向上をめざす。県民の音楽・創作活動の活性化のみならず、世界レベルの文化交流や、奈良県の文化を世界に向けて発信する場所として整備する。

・「「音」にこだわる」：「音」にこだわる改修計画とし、上演者・聴衆にとって「音」に特化した魅力付けを行うことで、近隣の他のホールにはない魅力を生み出す「音楽系を軸とした多彩な舞台芸術の殿堂」として整備する。また、多目的な演奏会やリハーサルに使える音楽練習室や練習スタジオなどにより、音楽文化の向上に寄与する。

【別添１】令和２年度文化会館整備検討事業業務委託　成果品概要版

(2)　新築する小ホールについては、既存建物と調和した外観とすること。

(3)　耐震補強工事については、令和元年度に応急的耐震補強工事を行っているため、その内容を反映した補強計画を立案し、安全に利用できる施設となる設計とすること。

(4)　長寿命化のための内外部改修工事については、既存建物の劣化度等の把握及び改修方法を検討し、安全に利用できる施設となる設計とすること。

(5)　小ホール新築工事及び国際ホール改修工事に係る音響設計を行うこと。音響設計については、基本設計時に規模、用途等を勘案した音響性能目標値を提案し、承諾を得た上で実施設計を行うこと。なお、国際ホールについては既存ホールの音響にかかる状況（残響時間等）を把握した上で、更なる魅力向上を目指す設計とすること。なお、レイアウト変更に係る必要諸室は【別添２】計画平面図及び【別紙３】諸室面積表を参照すること。

(6)　中庭屋内化工事やレイアウト変更に係る内部改修工事については、既存建物の魅力を活かしつつ、ホール利用がなくても訪れたくなるような、日常的な「賑わい」を生み出すための設計とすること。

(7)　前庭東部階段の再整備工事については、緩やかな階段やスロープ等の設置により、美術館等からの一体性・連続性を生み出す設計とすること。

(8)　エレベーター設置工事は、地下駐車場からエントランスへの動線や客席中央部へのバリアフリー動線を確保する設計とすること。また、エレベーター改修工事は既存不適格を解消する設計とすること。

(9)　視覚・聴覚障害者等に配慮したサインや音声誘導等の検討を行い、インテリアコーディネーター等の資格者等経験豊富な担当者により、分かりやすさ（ユニバーサルデザイン）や親しみやすさに配慮した計画とすること。